

出生前遺伝学的検査をめぐるカウンセリングの評価

A 病院における取り組み

○中込さと子（山梨大学大学院総合研究部）須波玲・中嶋るみ・鈴木美恵子（山梨県立中央病院）

キーワード：出生前遺伝学的検査，遺伝カウンセリング，産科医療，遺伝/ゲノム医療

緒言

2013 年から無侵襲的出生前遺伝学的検査（Noninvasive prenatal genetic testing[NIPT]）の国内臨床研修が開始し、その流れに伴い諸団体から指針、声明が出され、その中で遺伝カウンセリングの整備の必要性が提示された。

A 病院は平成 28 年から周産期遺伝相談外来を開設した。妊娠初期の遺伝カウンセリング（以下 GC とする）の流れは、1）妊婦全員に問診票で GC 希望の意志を尋ねる、2）妊婦健診や電話で看護師が案内や受診の相談を受ける、3）夫婦で認定遺伝カウンセラーと臨床遺伝専門医による GC を提供する、出生前遺伝学的検査に対して正しい知識を得た上で各種出生前遺伝学的検査の要否に関して意思決定できるよう支援する、その後、妊婦健康診査での助産ケアに引き継ぐ。

目的

本調査は、出生前検査をめぐる GC 受診者の GC に対する評価、満足度、受診後の意思決定を明らかにすることを通して、今後の GC の課題を見出すことを目的とした。

方法

1. 調査期間：平成 29 年 9 月～平成 30 年 2 月
2. 対象：A 病院の出生前遺伝カウンセリングを受けた妊婦とパートナー
3. 調査用紙：独自の調査用紙を作成した。
4. 依頼方法：文書及び口頭で調査依頼を行った。
5. 調査内容：調査票内容は、< (1) 年齢、初経産 > < (2) 出生前検査の内容の理解 >、< (3) GC の満足度 >、< (4) GC の評価 >
 - ➡ 医師・カウンセラー・助産師に（は）、
 - ① 私が受けたいと思っていたことをいうことができた。
 - ② 私の知りたいことに答えてくれた。
 - ③ 私に分かるように説明してくれた。
 - ④ 私は説明内容に不足を感じなかった。
 - ⑤ 説明の中で指示をしているように感じなかった。
 - ⑥ 説明内容は私の決定（選択）の助けになる。
 - ⑦ 私が理解しているか否かを考慮しながら説明してくれた
 - ⑧ 私の考えを尊重してくれた。
- < (5) GC 前の出生前検査の希望の有無 >
- < (6) GC 後の出生前検査に対する考え方の変化 >
6. 本調査は当院の研究倫理審査を受けた後に実行した。

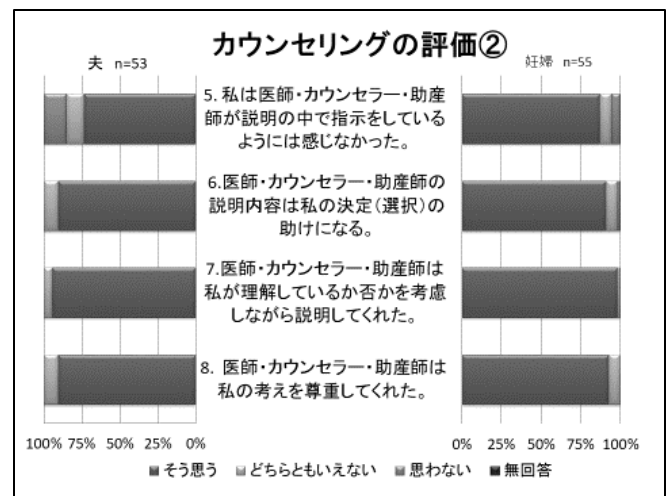
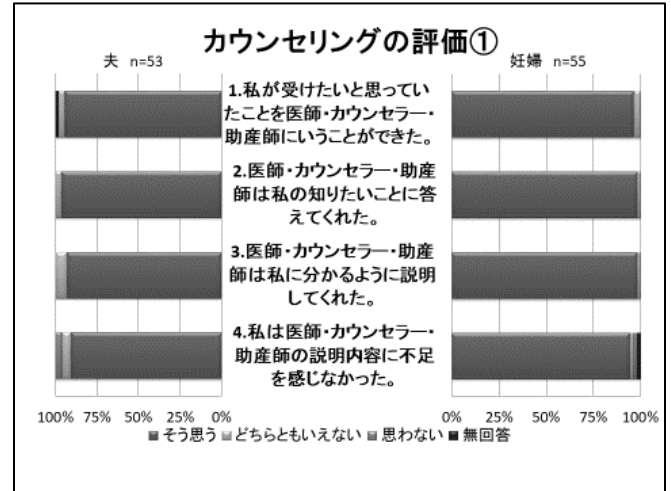
結果

配布総数は 110 名、有効回答は 108 名（98.2%）であった。妊婦は 55 名、夫は 53 名であった。平均年齢は妊婦 36.7±4.6 歳、夫が 38.9±5.4 歳であった。

< 出生前検査の内容についての理解 > では半数以上が「あまり知らなかった」「全然知らなかった」と回答した。

< GC の満足度 > では妊婦は満足（62%）、ほぼ満足（34%）、普通 2%、やや不満と不満は 0 であった。パートナーは、満足（53%）、ほぼ満足（38%）、普通（9%）、やや不満・不満は 0 であった。

< GC の評価①～⑧ > は、ほぼ「そう思う」と回答した。



GC 後に考えに変化ありと回答したのは、妊婦 27 名（49.1%）、パートナー 21 名（39.6%）であった。考え方の変化の内容は、不安の軽減、検査への理解の深まり、検査に対する再検討の機会、自己決定の促し、心構えの変化であった。

考察

GC は、妊婦には不安の軽減に、夫には検査の理解の深まりに変化を及ぼしたと考えられ、夫婦間の話し合いと意思決定を促進していることが示唆された。夫婦で GC を受けることにより妊娠を実感し、親としての心構えまで考えを深めていた夫婦もいた。GC が出生前検査のことだけではなく、妊娠初期に妊婦とパートナーへのケアになりうることを示唆された。

(NAKAGOMI Satoko, NAKAJIMA Rumi, SUNAMI Rei, SUZUKI Mieko)